

アルプス(ALPS)処理水海洋放出反対



署名(オンライン&署名用紙) 推進ニュース



みやぎ生協・コープふくしま

提出 してきました

推進事務局 情報発信チーム

No. 99

発行日 2023/8/9

7/7提出署名総数(最終)	254,353	筆
*オンライン署名	6,982	筆
*署名用紙署名	247,371	筆

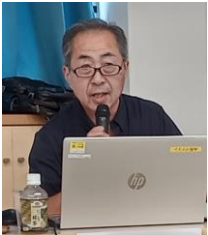
★署名の取組みは5月末をもって終了させていただきました。

みやぎ生協・コープふくしまは

東京電力福島第一原発事故におけるアルプス処理水(冷却水などの汚染水)の海洋放出に反対です。

◆7/27「第3次署名提出(最終署名提出)報告集会」を開催

最終署名提出(7/7)報告と今後の取組み方針とともに、これまで署名にご協力いただいた全国のみなさまに感謝の意を表す「報告集会」を開催しました。当日はオンラインを含め150人を超える皆様に全国から参加いただきました。ありがとうございました。支援いただきました関係団体の5人の皆様から取組みや思いなどについても報告いただきました。以下で紹介いたします。



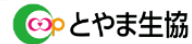
◇『生業を返せ! 地域を返せ!』福島原発訴訟原告団 団長 中島 孝さん

昨年6月、生業訴訟を含む福島第一原発事故の被害者が提起した4つの訴訟において、最高裁は「国の責任を問わない」という不当な判決を示しました。福島県漁連が処理水の海洋放出に反対しているのは、根拠のある不安です。多くの人々の反対にも関わらず、政府は汚染水海洋放出を押し進め、一握りの企業の儲けのために安全を売り渡しています。国の責任を認めなかった最高裁の判決は、こうした事態を招来する害悪となっています。ALPS処理水海洋放出反対署名を集めてきた姿に学びながら、被害者が起こしている裁判の原告と手を合わせて、これからも努力を重ねていきたいと思っております。

●長期にわたり裁判で戦って来られた姿に敬服します。原告団のみなさまの走り続ける姿に勇気をいただいています。これからも共にごがんばりましょう。

◇とやま生活協同組合 組織ネットワーク部 部長代理 森内 紀之さん

東日本大震災発生直後に支援物資や燃料を届けに行き、福島への支援活動が始まりました。福島の子どもの保養プロジェクトや学習会、福島視察に継続して取り組み、2023年3月には10回目となる視察交流ツアーを3年ぶりに実施しました。復興が進んだ部分と12年前から時が止まったままの姿を目の当たりにし、参加者からは自分の目で見てきた現状を組合員と共有したいという感想が聞かれました。2021年からはALPS処理水海洋放出反対署名に取り組み、学習を重ねながら署名を呼びかけ7,023筆の署名が寄せられました。集まった署名用紙は福島視察交流ツアーの際、直接お届けしました。これからも絆を大切に、福島の方々に寄り添って取り組みを進めていきます。



◇鳥取県生活協同組合 組織運営本部 組合員活動グループ 西村 弘命さん(オンライン)

東日本大震災後、鳥取生協では被災地支援の取り組みとして商品を買って支える取り組みや募金活動、子ども保養プロジェクト、被災地訪問を継続して実施し、4つの想い「つながる」「続ける」「伝える」「忘れない」を大切に、支援を続けてきました。福島に行かないと分からないことがあると感じていますので、これからは福島への訪問は継続し、しっかり持ち帰って伝えていきたいと思っております。これからはつながりあって歩んでいければと考えています。



●震災・原発事故以降、寄り添い続けてくださりありがとうございます。さまざまな交流を通してつながりを深め、太い絆になっておりますことに心から感謝申し上げます。これからはどうぞよろしくお願いいたします。

◇めぐみ野生産者 相馬双葉漁協 岩の子地区代表理事 佐藤 裕己さん

東日本大震災の際にはみなさまから多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。東日本大震災・原発事故後は出荷ができなくなりましたので、風評というより実害だと思っています。地元の方々に支えられ、現在は生産量を余すことなく販売できており、めぐみ野ブランド、古今東北ブランドとして、生産量を順調に伸ばすことができています。若い後継者の姿も見えてきて、浜に活気が出てきたと思っていたところに処理水の海洋放出が決定しました。復興の大きな足かせになることは言うまでもなく、非常に残念です。漁民が望んでいるのは海で漁業を継承していく、それだけです。みなさんに支えられながら、また生産を増やしていきたいと思っておりますので、これからはよろしくお願いいたします。

●復興に向けて歩みを進めてきた生産者さんの努力を無にするようなタイミングでの海洋放出方針決定に憤りを感じます。海の恵み、生産者さんの技術に感謝しながら、これからも海産物をおいしくいただき、応援していきます。



◇東日本大震災復興・復興支援みやぎ県民センター 事務局長 小川 静治さん

みやぎ生協・コープふくしまがめざすものとして「協働の力で人間らしい暮らしを創造し、平和で持続可能な社会を実現します」というスローガンを明示しています。ALPS処理水問題は人間らしい暮らしを破壊し、持続可能な社会の実現を遠ざけるものでしかないと思っております。被災市町村の復興計画は、ALPS処理水の海洋放出を想定して作られたものではありません。復興計画自体が破綻し、まちづくりが根本から壊されています。本来なら国が被災市町村を支援しなければいけないはずが、足を引っ張っている状況です。合意形成をないがしろにして強引に進めるやり方は正していかなければいけません。今回の署名活動で築き上げた協働と連帯を大切に、東日本大震災の復興を全国のみなさんとともに進めていければと思います。



●復興のため、廃炉のためという大義名分のもと進んでいくALPS処理水の海洋放出計画に、誰のための復興なのかと疑問に感じます。被災市町村、地元住民が真ん中に置かれた復興が進むことを望みます。

◇「全国25万人の声をどう受け止め、どう今後につなげていくか」 福島大学食農学類准教授(みやぎ生協・コープふくしま理事) 林 薫平さん

東日本大震災・原発事故からの復興は連帯の力が試される試練でした。農業・漁業・林業の復興と一緒に考え、伴走するなかで、全国の支援を改めて感じ、全国のみなさまとの連帯を心強く感じています。原発の問題と一緒に考えていただき、全国の皆様には地元の復興支援と、原発を厳しく監視していくことをお願いしたいです。ALPS処理水の海洋放出計画には、まだまだ議論すべきことがあります。ブレーキをかけられるのは国民の世論だけです。漁業の現場の問題、原発の廃炉の課題を検証し、どう復興を進めていくのかを議論していく場として円卓会議を開設しました。ぜひ生協のみなさんにもご参加いただければと思います。



●問題に向き合うこと、考えること、声を上げることの大切さ。世論を大きくし、ALPS処理水問題を日本全体、世界の問題として広めていくことが重要だと感じました。

<編集後記>erikoのつぶやき

高級プラム初体験!
プラムの王様『貴陽』をご存知ですか?大きさは一般的なプラムの3倍くらい。桃と遜色ない大きさです。果肉の食感、甘味、酸味、香りすべてが最高♡なかなか手に入らない高級品に、貴陽を持つ手が思わず震えます。食べるのがもったいない、大事に食べようと思いつつ...手が止まらず、咀嚼が止まらず...瞬間に完食。おいしいものは偉いです。「塩をかけて食べるとおいしいよ」と教えてもらい、なんでプラムに塩をかける?と思いながらも早速実行。
試してみたらプラム+塩はクセになるおいしさでした。まだまだ世の中には知らない美味しいものがたくさんありますね。美味しいものに出会える喜び堪能!
ちなみに、N編集長は『貴陽』が大好きだそうですよ~



<情報・お問い合わせ先>

みやぎ生協・コープふくしま 福島県本部内
「アルプス(ALPS)処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局
〒960-8566 福島県福島市森合字清水7番地 コープふくしま いずみ店2F
TEL024-557-1181 FAX557-5359 * mail :sn.f10243sn@todock.coop (根本)



2023/8/2 福島民報

